

春の指標種一覽

アプリでいきもの調査の対象となる春の指標種は以下の種類です。

次のページ以降の、指標種の写真と特徴を参考に探してみましょう。太字は身の周りで見られる身近な種になります。

分類	指標種	見られる場所	難易度
植物	ナガエツルノゲイトウ	河川、水路、湖沼、水田	☆☆
	ホトケノザ	路傍、畑	☆
	オオキンケイギク	河川敷、空き地、路傍	☆
	カントウタンポポ	路傍、空き地、草地	☆☆
哺乳類	アライグマ	森、畑、川、市街地	☆☆☆
鳥類	コサギ	川、水田	☆☆
	ダイゼン	干潟、海岸	☆☆☆☆
	ミヤコドリ	干潟、海岸	☆☆☆☆
	サシバ	里山、丘陵、水田	☆☆☆☆
	カワセミ	川、公園の池	☆☆☆
	コゲラ	森、樹上	☆☆☆
	モズ	草地、河川敷	☆☆☆
	シジュウカラ	森、公園、市街地の林	☆☆
	ヒバリ	草地、河原、空き地、耕作地	☆☆
	ツバメ	市街地、耕作地	☆☆
爬虫類	アカミミガメ	河川、湖沼、ため池	☆☆
	ヒガシニホントカゲ	民家、路傍、草地、石垣の上	☆☆
	ニホンカナヘビ	草地、林縁、民家	☆☆
両生類	ニホンアカガエル	水田、湿地、林縁、草地	☆☆
	トウキョウダルマガエル	水田、湿地	☆☆☆
昆虫類	ツマグロヒョウモン	草地、市街地、公園	☆☆
	アカボシゴマダラ	市街地、林縁	☆☆
	ナガサキアゲハ	林縁、果樹園、公園	☆☆☆
底生動物	タニシ類(マルタニシ・ヒメタニシ)	水田、水路	☆☆☆

しひょうしゆ み かた とくちよう
指標種の見つけ方・特徴

ナガエツルノゲイトウ



- ◆ 河川、水路、池などに群生するヒユ科の多年草。
- ◆ 南アメリカ原産。特定外来生物に指定されている。
- ◆ 高さは10cm～数10cm。
- ◆ 繁殖力が旺盛で、マット状の大群落となる。千切れると千切れた断面から再生するため、駆除が困難。
- ◆ シロツメクサのような白い球状の花をつける。

ホトケノザ



- ◆ 畑地や道ばたによく見られるシソ科の植物。
- ◆ 高さは10cm～30cm。
- ◆ 紫の唇形状の花をつける。開花時期は3月～5月だが、冬の時期でも見られる。
- ◆ 春の七草のホトケノザはコオニタビラコであり、この種ではない。

オオキンケイギク



- ◆ 河川や空き地、路傍などに見られるキク科の多年草。北アメリカ原産。
- ◆ 日本在来の植物と競合し、生息場所を奪ってしまうため特定外来生物に指定されている。
- ◆ 高さは30cm～70cm程度。
- ◆ 鮮やかな黄色い花をつける。開花時期は5月～7月でしばしば群生する。葉はコスモスなどとは異なり、切れ込みのないへら状。

指標種の見つけ方・特徴

カントウタンポポ



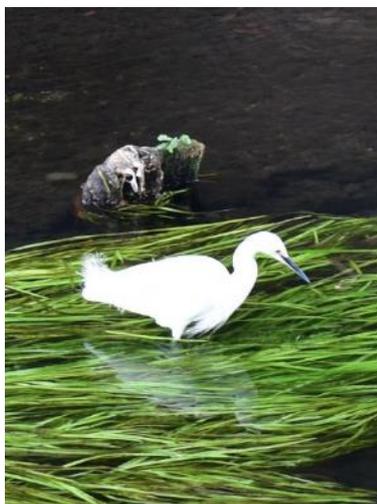
- ◆ 路傍、空き地などに見られるキク科の多年草。高さは約30cm。
- ◆ 日本の固有種であるが、現在はセイヨウタンポポの方がよく見られる。
- ◆ 花期は3～5月。冬は地上部が平らなロゼット状になる。
- ◆ よく似たセイヨウタンポポとの違いは、セイヨウタンポポは花弁の下の総苞片が反り返るのに対しカントウタンポポは総苞片が反り返らないこと、セイヨウタンポポは一年中開花するのに対し、カントウタンポポは春にしか開花しないことである。

アライグマ



- ◆ 雑食の中型ほ乳類。
- ◆ 特定外来生物に指定されている。
- ◆ 夜行性で、森林、湿地、農耕地、市街地に生息している。
- ◆ 灰褐色の体毛と、目の周囲の黒い模様が特徴。長いしっぽに黒い輪模様がある。
- ◆ アライグマは足跡が特徴的。他種と見分けが付きやすい。
- ◆ タヌキやイヌの足跡と違って、アライグマの足跡はヒトの手形のように5本の指と手のひらがくっついた形状。
- ◆ 足跡は水路沿いの砂地、畑の土などに残りやすい。

コサギ



- ◆ サギの仲間の鳥類。サギ類の中では最も小型で全長は約60cm。
- ◆ 昼行性であり、水田、河川、湖沼、湿地、干潟に生息し、魚類や両生類を採食する。
- ◆ 体が純白であるのに対して、くちばしが黒色、足先が黄色であるのが特徴。

しひょうしゆ み かた とくちよう
指標種の見つけ方・特徴

ダイゼン



- ◆ 海岸や砂浜で見られる鳥類。全長は約30cm。
- ◆ 砂泥質の干潟、湿地、水田に生息している。
- ◆ 黒と白のツートンカラーの鳥だが、夏と冬で黒の配分が異なる。夏は顔から腹にかけて黒くなるが、冬はわきの下が黒く腹は白い。
- ◆ 砂浜や干潟でゴカイを食べる姿が見られる。
- ◆ 三番瀬ではほぼ一年中見られるが、渡りを行う冬鳥であるため6月ごろから数が減る。

ミヤコドリ



- ◆ 海岸や砂浜で見られる鳥類。全長は約43cm。
- ◆ 千葉県には秋頃に越冬のために来て、春には渡りが始まるため、春以降に確認できる数が少なくなる。
- ◆ 体の上面が黒色で、下面が白色、くちばしは長く赤い、足はピンクという特徴的な配色をしている。
- ◆ 三番瀬で多く見られる。

サシバ



- ◆ 里山や丘陵に生息する猛禽類。渡りを行う。日本では3～10月に見られる。
- ◆ 大きさはカラスと同じくらいで、全長約50cm。全体的に茶色いが、腹に横縞がある。
- ◆ 水田の周りの樹木や電柱の上から地上を見張り、獲物を見つけると飛び降りて捕まえる。カエルなどの両生類やトカゲ・ヘビなどの爬虫類を餌とする。
- ◆ 「ピクイー」と高い声で鳴く。

しひょうしゅ み かた とくちよう
指標種の見つけ方・特徴

カワセミ



- ◆ 水辺に生息する鳥類。全長は約17cm でスズメよりやや大きめ。
- ◆ 大きなくちばしと、青色と橙色の体色が特徴の人気鳥。
- ◆ 2月～3月は繁殖期となり、活動が活発になる。
- ◆ 魚や水生昆虫を餌とする。川辺の木の枝などに止まって獲物を探す姿が見られる。

コゲラ



- ◆ キツツキの仲間の鳥類。全長は約15cm。
- ◆ 昼行性で、樹木の多い公園にも生息している。細い幹や、小枝を好む。
- ◆ 「ギー」という低い声を出す。
- ◆ シジュウカラ類と群れになって後方からついていく。
- ◆ 硬い羽軸のある尾羽を幹にピッタリつけて、両足と尾羽の3点で体を支えている。尾羽を木の幹につけているのが特徴。

モズ



- ◆ スズメより一回り大きい鳥類。全長は約20cm で太めの体型と細長い尾が特徴。
- ◆ 疎林、林縁、木のある草地、農耕地、公園、畑地に生息している。尾を上下に振り、獲物を待っている。
- ◆ 「キーン」という高鳴きをする。
- ◆ 枝や有刺鉄線で、はやくえを見ることができる。

しひょうしゅ み かた とくちょう
指標種の見つけ方・特徴

シジュウカラ



- ◆ 日本で最もよく見られる野鳥の一種。全長は約15cm。
- ◆ 市街地の公園から森林まで広範囲に生息している。6匹以下の小さな群れをつくる。
- ◆ 昆虫類やクモ類、木の実を餌とし、地上で採食する。
- ◆ 胸から腹にかけてあるネクタイのような太い黒い線が特徴。

ヒバリ



- ◆ スズメよりやや大きい鳥類。全長約17cm。
- ◆ 茶色、白、黒のまだら模様で、頭に小さいトサカのような「冠羽」がある。
- ◆ 2月ごろから草丈の低い草原や河原の上空で飛びながら長時間さえずり、縄張りを主張する。
- ◆ 昆虫類や草の種子を餌とする。

ツバメ



- ◆ 渡りを行う鳥類。3～4月ごろに日本に飛来する。全長約17cm。
- ◆ 上面が黒青色、下面が白色で切れ込みのある尾が特徴的。俊敏に飛翔する。
- ◆ 軒下などに巣を作ることでよく知られる。雛は巣で親が餌を運んでくるのを待つ。
- ◆ 昆虫類を餌とし、空中で捕食する。

指標種の見つけ方・特徴

アカミミガメ



- ◆ アメリカ原産の雑食のカメ。別名ミドリガメ。
- ◆ 全長は 20～30cm ほどになる。
- ◆ 側頭部の赤色の筋模様が特徴。幼体は全身が鮮やかな緑褐色で、成長とともに鮮やかさは失われる。
- ◆ 河川や湖沼、ため池などに生息する。
日本では野生化したものが定着し、在来カメの生息を圧迫している。
- ◆ 野外への放出、販売・購入が禁止されている条件付特定外来生物である。

ヒガシニホントカゲ



- ◆ よく見られるトカゲ。全長約20～25cm。
- ◆ 幼体は黒い体に黄色い筋が入り、尾はコバルトブルーだが成長とともに尾の色は失われる。
- ◆ 民家の庭、畑、道路わきの斜面などに生息する。
- ◆ ミミズ、コオロギなどの昆虫類を餌とする。
- ◆ 体を温めるためにしばしば石垣やコンクリートの上で日光浴をしている様子が見られる。
- ◆ 危険を感じると尾を自切り、おとりにする。
- ◆ 西日本に生息するニホントカゲとは別種であることが分かった。

ニホンカナヘビ



- ◆ 日本固有のトカゲの仲間。全長約20cm。
- ◆ 背面は光沢のない茶色でかさついたうろこにおおわれている。目の下から体に沿って白い線が走る。尾が長く、体の半分以上になる。
- ◆ 落ち葉や草むらの間に生息する。
- ◆ 昆虫やクモ類を餌とする。

しひょうしゆ み かた とくちよう
指標種の見つけ方・特徴

ニホンアカガエル



- ◆ 平地や丘陵地の水田や湿地に生息する中型のカエル。平地で普通に見られる。
- ◆ 全長は 35～67mm。体の色は黒褐色から赤褐色。目から後ろに明瞭な線がのびる。
- ◆ ヤマアカガエルによく似るが、ニホンアカガエルは背中の線がまっすぐなことで識別できる。
- ◆ カエルの仲間では一番産卵が早く、1～5月に水田などに産卵する。
- ◆ 「キョキョキョキョキョ…」と鳴く。

トウキョウダルマガエル



- ◆ 関東地方の湿地や水田の周辺に生息する中型のカエル。
- ◆ 全長は約40～87mm。
- ◆ トノサマガエルに似るが、四肢がやや短いこと、背中の黒色の模様が独立していることが特徴。
- ◆ 繁殖期は4～7月で、水田や沼、河川の止水に卵を産む。
- ◆ 「ウゲゲ、ウゲゲ…」と鳴く。

ツマグロヒョウモン



- ◆ 中型のチョウ類。
- ◆ オスの表はヒョウ柄の模様で、メスは外側に青色光沢の模様がある。
- ◆ 平地から丘陵地の明るい草地に生息する。スミレ科の植物を食草とするため、パンジーの植栽の多い都市部でよく見られる。
- ◆ 日中、低い場所を緩やかに飛翔し、花を訪れる。

指標種の見つけ方・特徴

アカボシゴマダラ



- ◆ 中型のチョウ類。関東地方で見られる個体は、中国大陸原産の外来種である。
- ◆ 特定外来生物に指定されている。
- ◆ 表は白色の地色に黒色の脈が入り、後翅の外側に赤の模様が入る。
- ◆ ゴマダラチョウに似るが、本種には赤の模様があることで識別できる。街路樹や公園樹木として使用されるニレ科のエノキなどを主食とするため、市街地でも見られる。河川沿いにも多い。

ナガサキアゲハ



- ◆ 大型のアゲハ蝶。
- ◆ 東アジアや東南アジアに分布し、1920年ごろまでは九州や四国南部にしか分布していなかったが、温暖化の影響で分布が拡大し現在は関東地方でも普通に見られるようになった。
- ◆ ミカン類の葉を主食とするため、ミカン畑の周りに多い。
- ◆ よく似たクロアゲハとの識別点は、ナガサキアゲハは翅の付け根が赤くなること、後翅の先の尾状突起がないこと。

タニシ類(マルタニシ・ヒメタニシ)



※写真はマルタニシ

○マルタニシ

- ◆ 淡水性の巻貝。佃煮などにして食用される。
- ◆ 殻の高さは60mm、殻の径は約44mm、殻の層は6層。丸みを帯びた形状である。
- ◆ 水田、池沼、水路に生息する。底泥や水生植物に付着している微小生物を餌とする。
- ◆ 農薬等による水質汚濁や用水路のコンクリート化などで、近年生息数が減少している。

○ヒメタニシ

- ◆ 淡水性の巻貝。殻の高さは35mm程度でマルタニシより小型。小川、水路、池沼に生息し、汚れた水にも強い。